

平成27年度 委員会事業報告

委員会名	未来創造特別委員会		委員長	吉田友和
事業名	2019年「環光のまち因幡」実現へ向けて～真の挑戦～			
実施日時	2015年11月10日 11月理事会 審議承認後			
会場	因幡地域			
参加人員	内部	132人	外部	計 132人
動員計画検証	理事役員対象にJC運動連絡会議を2回(3月20日・6月15日)、全体説明会(5月20日)、アクションプラン全体発表会(11月18日)を開催することにより、組織全体がアクションプランへ向き合う機会となった。しかし、組織全体の方向性一つするには全員出席で全ての会議を開催すべきであった。欠席者や若手メンバーへ対し、アンケート結果に対する回答を活用し、各委員会と連携すると同時に、次年度組織の委員会や各会議等でもフォローを継続的に行う必要がある。			
事業目的検証	対外的	「環光のまち因幡」実現へ向けたアクションプラン策定により、対外的にも活動内容がより明確で解りやすいものとなり、今後更に多くの協力者を巻き込んだダイナミックな事業展開が期待できる。また、今後の活動をロードマップに沿って組織全体が忠実に実行していくことで、因幡地域の継続的な発展に繋がる大きな一歩となった。		
	対内的	各取組みに目指すべき目標を設定したロードマップにより、各年度の活動内容が明確になり、組織全体の方向性一つにすることが出来た。さらに、アクションプラン全体発表会により理解度を深め、アンケート集計への回答を周知することにより、疑問点などが明確になり理事役員以外への理解も深まり、組織全体の向かう方向性を統一出来た。また、アクションプランを策定したことにより、単年度制の弱点がなくなった。そして、組織全体の継続的な発展は、2019年に「環光のまち因幡」実現へ拍車をかけることへと繋がった。		
事業内容検証	運営上	ビジョン策定後の事業実績を活かすための徹底的な検証と内部と外部への意見集約により過去・現代・未来を反映する事が出来た。そして、内部でのJC運動連絡会議・全体説明会・アンケートなどによりバージョン更新した内容を繰り返しメンバーに直接伝える事で、アンケートの結果からも読み取れるようにメンバーへ対する理解度は深まった。また、組織の方向性を全メンバーで繰り返し検討する事により、組織全体がビジョンに対して意識を変える大きなきっかけとなった。しかし、当初策定スケジュールより大幅に遅れてしまったため、組織への確実な浸透には至らなかった。外部への聞き取り内容の反映や内部へのコンセンサスを得るためには、策定スケジュールの精度を上げる必要があった。さらに、次年度の活動内容へ反映することでアクションプラン遂行へ繋がる。		
	予算上	来年度以降の3年間、メンバーが見やすく解りやすいものにするために、アクションプランの手帳印刷用イメージを外部委託した。素人にはない表現やデザイン変更に対する要求にも素早く対応して頂き、費用対効果はあると感じる。		
	その他	添付資料002_アンケート集計への意見と回答は、アクションプランに対するメンバーの声が集約された資料であり、今後ベテラン・若手を問わずのアクションプランの手引きとして活用する事が出来る。また、アクションプランは「環光のまち因幡」実現のためのものであり、アクションプランを遂行する上で根幹部分は、継続する必要がある。		
今後の展望	「環光のまち因幡」を実現するため策定したアクションプランを活用することが、組織の向かう方向を多くの協力者へ理解して頂くとともに、組織全体がひとつになるための道導となる。 また、70周年に向けた次の中期ビジョン策定においては、時代背景を反映するためにも外部の意見を取り入れ、組織の方向性を合わせるための分かりやすい計画立案を行い、事業構築を行う視点を明確に提示したうえ、組織内で綿密な情報共有を行うことが、明るい豊かなまちを目指す鳥取青年会議所の真の挑戦へ繋がる。			

委員会名	会員拡大特別委員会			委員長	幸田伸一
事業名	会員拡大 必達33%に向けた年間の取組				
実施日時	2015年1月1日～2015年12月31日				
会場	事務局他				
参加人員	内部	132人	外部	1人	計 133人
動員計画検証	人、モノ、情報の流れが上手に機能し、必達33%達成に向け、後期入会21名の成果を残すことができました。また、定例会時にキャッチフレーズを全メンバーで共有することにより、一体感が生まれ継続的な拡大運動に繋がったと考えます。				
事業目的検証	対外的	年間事業計画のストーリーに沿って拡大運動に取り組んだ結果、市民・行政・企業などにJC運動を発信することができました。その結果、後期入会21名という過去最多の入会をいただいたことで、理解・賛同していただき、会員拡大につながったと考えます。			
	対内的	年間事業計画のストーリーに沿って継続的に拡大運動の必要性、会員減少の危機感を発信し続けたことにより、会員一人ひとりの意識の向上と姿勢の変化と実績をもって確認することができました。また、会員数の増加により組織の継続・発展の一助となったと考えます。			
事業内容検証	運営上	<p>【会員拡大必達33%に向けた事業計画】</p> <p>【事業概要】</p> <p>①新たな候補者データも含め情報共有システムの更新 ②会員拡大アカデミーの開催 ③異業種交流会の実施 ④チラシ・パンフレットの作成 ⑤副委員長連絡会議の実施 ⑥拡大褒賞の実施</p> <p>■拡大リストの更新、副委員長連絡会議での情報共有、異業種交流会でのJC運動の発信、パンフレットの作成、拡大褒賞の新設によるモチベーションアップ、そして会員拡大アカデミーでの意識向上を通じて拡大運動の共有を継続的に行いました。このひとつひとつが拡大運動の確立した流れとなり、成果へと繋がりました。しかしながら、情報の管理を早期に処理できなかった点は課題として残りました。具体的には、いつ、誰が、どのようにといった行動管理や会社訪問を徹底することで、更なる効率的な拡大運動に繋がると考えます。</p>			
	予算上	なし			
	その他	なし			
今後の展望	本年度は日本青年会議所拡大褒賞を受賞しました。今後は成功LOMとして他LOMから注目されるLOMとなります。組織の根幹である拡大運動は継続していくことが大切です。また、成果を挙げた裏には仕組みが存在します。拡大メンバーだからできたのではなく、誰でもできる仕組みを構築することが必要となり、その仕組みの構築こそが、JC運動の発信に繋がると考えます。そして本年度までに抽出した拡大候補者に対し定期的な会社訪問を随時行い、成果を挙げてください。				

委員会名	研修委員会				委員長	濱田 陽介			
事業名	研修会員研修会								
実施日時	前期:1月入会～正会員承認まで/後期:6月入会～正会員承認まで								
会場	商工会議所会議室、鳥取砂丘、陸上、鳥取JCしいたけの森								
参加人員	内部 (前期)	研修10名、 研修会員18名	人	外部	西垣OB 1名	人	計	29人	
	内部 (後期)	研修10名、 研修会員18名	人	外部	西垣OB 1名	人	計	32人	
動員計画検証	前期18名、後期21名の研修会員を研修会の目的を体感しながら正会員へ導くことが出来た。後期入会者は当初21名であったが、途中で3名の退会者が出てしまった。四役、配属委員会の協力も頂き留意に務めたが、止めることが出来なかった。出席義務項目(定例会、研修会、後期・サマーコンファレンス、全国大会)を予定通り進めることが出来なかった為、3名の研修会員の承認が遅れた。								
事業目的検証	対外的	なし							
	対内的	第一回、第二回研修会では、鳥取青年会議所の会員として必要な基礎知識とマナー、そして議論する力(調査研究能力、発言力など)を身に付けて頂けた。また、OB講演では、卒業生ならではの視点から、JCで得たこと、卒業後に活かしたこと、そして目的をもって活動に取り組めば必ず成果が得られることの体験談のほか、ビジョンを踏まえた内容を盛り込んで頂くことで、鳥取青年会議所の活動を理解する土台に繋がったと考えます。第三回の研修会では、研修会員同士の絆を深めながらチームに分かれ三政策について検証・準備し、実際に事業が行われた場所で発表する体験型研修を経たことで、今後のJC活動に積極果敢に取り組める意識醸成の一助となりました。							
事業内容検証	運営上	○第一回研修会では、JC活動における最低限の知識やキーワードを習得できるように、スライドや小テストを用いて講義を行うことで、効率的に身に付けて頂けました。また、OB講演では西垣OBにビジョンの内容を盛り込んで頂くことで、鳥取青年会議所の理解に繋がるものとなった。研修委員会メンバーとしても新たな知識の醸成に繋がった。 ○第二回研修会までに約一ヶ月半の期間を置き、最低2回のチームミーティングを課したことで、十分な事前準備と予備議論が実施できたとともに、同期同士の絆の醸成にも繋がり、研修会の目的達成の一助となりました。しかし、後期のメンバーに関しては、委員会が活発になりスケジュール調整が困難であった。 ○第三回研修会では、全研修会員が担当委員会をしっかりと調査し、委員長への聞き取りにより、三政策を理解した上で若者らしい個性豊かな発表となりました。また普段あまり清掃・保全活動をしたことが無く、地域活動の良い経験となった。しかし、後期入会者は事業等が重なり十分なスケジュールを確保するのが難しかった。 ○今回は、研修を通して鳥取青年会議所への理解に重きを置き、それに沿った内容で行いましたが、研修会員からはJC活動の理解に繋がったという多くの意見をいただき、積極的に活動へ取り組む人材の育成に繋がったと感じています。							
		予算上	研修会員の安全性を十分に留意する上で、バスでの移動・当日の保険加入を行いました。						
	その他	近年の拡大成功により入会者が増加し、スケジュール調整が難しく、本年も大変苦労しました。入念な事前準備と、前倒しのアナウンスが必要不可欠です。研修会員へは、一貫して厳しい姿勢で臨むことが緊張感と説得力を生みます。本年度は細かな運営ミスがあり、しっかりとしたシミュレーションの必要性を改めて感じました。事業等への参加率向上や研修会のフォローについて、所属委員会との連携が必要不可欠です。それぞれの役割を明確にして、定期的に連絡を取り、状況確認することも大切と考えます。							
今後の展望	本年は鳥取青年会議所への理解に重きを置き、それに沿った内容で行いましたが、研修会員から概ねJC活動の理解に繋がったという声を多く頂き、積極的な活動へ取り組む人材の育成に繋がったと感じています。研修会員研修会は、内容も大切ですが、研修会員がどの様に成長して欲しいのかが重要です。そして、先輩会員としての見本となるべき姿・行動も大切です。また、所属委員会との連携を綿密に行い、研修会員の成長という目的を同じくして、真摯に研修会に取り組んでください。								

委員会名	研修委員会		委員長	濱田 陽介	
事業名	3分間スピーチ				
実施日時	2015年 1月～8月定例会時				
会場	定例会会場				
参加人員	内部	132人	外部		計 132人
動員計画検証	本年度の発表者は、2014年度以降からの入会で未発表の全ての会員を対象としました。本年度の発表予定者は予定通り全員参加していただき当日の発表をしていただきました。				
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	<p>①定例会という会員が一同に集う厳粛で緊張感のある雰囲気での発表を行う難しさ。</p> <p>②テーマに沿って想いや考えを重ね、本番に向けて何度も準備・練習を重ねてきた努力。</p> <p>③発表に向け努力し、本番を終えた時の達成感。</p> <p>上記の点は、いずれの発表者にも感じて頂けたことで、これらの経験こそが今後の活発な青年会議所活動に繋がると感じます。</p>			
事業内容検証	運営上	<p>①テーマ 「今の私とこれから365日で起こす変化」というテーマにより、素直で、自然で、人間の地を打ち出すスピーチにする為に今の自分を振り返り目標を定めることで自分の考えや想いを表現でき、発表者ごとの多様性も期待できるテーマとして選定しましたが、個々が様々な見解があり内容もオリジナリティーがありました。</p> <p>②事前フォロー 研修委員会が主導する形で実施しましたが、所属委員会との連携をしっかりと図り、常に発表者・配属委員会・研修委員会が共同で実施することが出来ました。事前フォロー後も自主的に練習を重ね、本番に向けての本人の意欲向上に繋げることが出来ました。</p> <p>③講評 講評に関しては感想記入用紙の変更、委員会訪問時での講評練習、講評についての説明を訪問した委員会でおこないました。講評についての理解を図ることができ、講評もしっかりと努めていただけたと感じます。今後も継続的に講評の理解を実際に委員会訪問でおこなうことが、講評者の講評に対する理解度向上に繋がります。</p> <p>④事後フォロー DVDにて発表を確認し振り返り、講評をしていただいた内容について自分自身で振り返ることが新たな気づきがあるようでした。今後も、このような振り返りの機会は引き続き必要と感じます。</p>			
	予算上	なし			
	その他	<p>事前、事後フォローとも、当委員会、発表者、所属委員会とのスケジュール調整が困難でしたが、おおむね連携はとれました。スケジュール調整は非常に難しいので、早い段階で調整し全員で共有する必要があります。</p> <p>事後フォローは研修委員会が当日のDVDと講評記入用紙のまとめを総括させていただきましたが、講評記入用紙の精度、所属委員会での協力体制をしっかりと確立し取り組んでいく必要があると感じます。</p>			
今後の展望	<p>3分間スピーチは、発表者にとって大きな挑戦に向けての準備、厳粛な会場で行う緊張感、そして発表を終えた達成感を得られる個人の指導力開発に欠かせない事業であります。</p> <p>今年の発表者は事前に配属委員会のご協力のもと事前に入念な準備を重ねられました。</p> <p>その努力を所属委員会、運営委員会ともに共有し、共により良い3分間スピーチとなるような工夫を検討し、継続して頂きたいと思っております。</p>				

委員会名	研修委員会			委員長	濱田 陽介	
事業名	資質向上研修事業 ～国史・因幡史から学ぶ郷土愛と誇り～					
実施日時	2015年11月17日(火)19:00～21:50					
会場	鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル5F 大会議室					
参加人員	内部	79人	外部	(金田綱直を含む)2人	計	81人
動員計画検証	事前連絡を会員全員を対象に行ったが、当日の欠席者が多数出てしまいました。また、補講日も設けましたが、すべてのメンバーに受けていただくことが出来ませんでした。					
事業目的検証	対外的	参加いただいた多くのメンバーに郷土愛と誇りが活発なJC活動に繋がることを感じていただけたことで、今後の活動を通じて、明るい豊かな社会の実現へ繋がっていくと感じています。				
	対内的	アンケート結果より、参加頂いた9割の方が、国史・因幡史を通じて郷土愛と誇りを感じ、それが活発なJC活動に繋がることを感じて頂いたことで、会員の資質向上へ繋がったと感じています。しかしながら、因幡史の講演で時間がきてしまい、最後の部分をお聞きいただけず、また、第2部のディスカッションで、講演内容から更に郷土愛と誇りを醸成していただく仕組みがうまく伝えられず、もっと郷土愛と誇りを醸成して頂くことができたのではと考えています。				
事業内容検証	運営上	<p>①第1部・講演について 因幡史の講演において、時間通りに講演が進まず途中で終わってしまいました。講演時間にもう少し余裕を設ける事、準備段階での打合せ不足を感じました。</p> <p>②第2部・ディスカッションについて 事前に委員会内でのシミュレーションを行い、コーディネーターの目的意識の共有をはかりましたが、当日は差が出てしまい、進行に影響が出てしまいました。コーディネーターの意識共有が均一になるまで繰り返しシミュレーションをする必要がありました。 ディスカッションにて講演で感じていただいた郷土愛・誇りを更に醸成してもらう仕組みを参加者にうまく伝えることが出来ませんでした。</p> <p>③全体について 講演をもっと聞きたかったという多くの意見を頂いたことから、しっかりと講演を聞いて頂ける体制づくりが必要であったと感じています。 また、今回のようなディスカッションでは、更なる郷土愛と誇りの醸成には繋がりにくく感じました。日を改め、講演内容の現地まで足を運ぶなど、体感して更なる醸成をはかるようなことが必要であったと感じています。</p>				
	予算上	会場備品の消費税を単価ごとに計算してしまい、誤差が生じてしまった。				
	その他	当日の趣旨説明の際にディスカッションをどの様におこなうのかを伝え、講演をしっかりと聞く体制づくりに欠けていました。 第2部ディスカッションについての説明の部分でも十分な理解を図ることが出来なかった。 講演者の2名にディスカッションについて講評をしていただき、会員としての新たな気づきに繋がったと感じます。				
今後の展望	回の事業では、国史・因幡史を通じて、郷土愛と誇りの醸成というテーマで行いましたが、会員の資質向上とは一人ひとりの明るい豊かな社会の実現にむけての意識を高め、率先して活動をする人材育成であると思います。日本青年会議所の公式セミナーや各地域で行われている講演などを参考にいただき、今後どの様に鳥取青年会議所の会員として何が必要であるのかを明確にし、資質向上を考慮した事業展開を行っていただきたいと思います。					

委員会名	組織力向上委員会		委員長	谷口拓史	
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 新年祝賀会式典				
実施日時	2015年1月10日(土)18時00分～18時40分				
会場	ホテルニューオータニ鳥取(鶴の間 西)				
参加人員	内部	83人	外部	80人	計 163人
動員計画検証	<p>部分審議承認を得てからの迅速な案内状の送付、また電話連絡では最初にOB会員全員へ当委員会メンバーから連絡、そして欠席の方には関わりのあるメンバーからの連絡といったように段階的なアプローチができたことで出席率向上へ繋がった。ただやはり現役メンバーに関しては、若手の比率が近年高くなっていることもあり、今後OB会員と関わりのあるメンバーが減少傾向にあることを踏まえた対策も考えていく必要があると感じた。現役メンバーについては89%の出席率を得られた。定例会時での呼びかけ、副委員長経由での出席率向上へ向けた連携体制といったところでこの出席率を得られた。また出席率の悪い委員会に関しては、最後に委員長からも再度声かけをしていただき、出席率向上へ向けた徹底したアクションを起こすことができた。</p>				
事業目的検証	対外的	2015年度スローガン「真の挑戦」のもと、本年度へかける力強い意気込みを発信をすることができ、来賓やOBをはじめとする外部の皆様方に、(公社)鳥取青年会議所活動へのご理解をいただき、今後の活動における更なる協力、連携体制を深めることが出来た。			
	対内的	明るい豊かな社会実現へ向け、森原理事長のビジョニングを多くのメンバーで共有することで、会員全体での意思統一、また気運の向上が図れ、ひいては今後のまちづくり活動における原動力を奮い立たせることができました。			
事業内容検証	運営上	<p>組織力向上委員会メンバーのうち、大半を若手が占めるという現状で、やはり当日多岐にわたって個々のメンバーの不明な点が浮き彫りとなった。その影響もあり式典進行中、常にメンバー全員に焦燥感をもたらすかたちとなってしまった。もっと入念に過去の式典のDVD記録のチェック、またそれを踏まえて現地での余念の無いコミュニケーションを再度繰り返すことで不安要素を払拭していく必要がある。</p> <p>またそれでも当日抜け落ちてしまう部分に関しては、現役メンバーにおけるベテランメンバーの比率が減ってきていることも考慮にいれ、積極的にベテランメンバーに不明な点を随時ご教授してもらうことも必要。組織全体で式典を敢行するのだという共通認識を持ち、その上で連携、協力体制をとっていく必要がある。</p>			
	予算上	次第作成費、委員会活動パネル作成費に関して、不足分予備費をあてました。			
	その他	なし			
今後の展望	<p>年度最初の事業というところで、多くのご来賓、OBの方々をお招きするための動員計画の構築、またその方々をおもてなす側として現役メンバーの高い出席率は必要不可欠です。またお招きした方々とのしつかりとした協力体制、連携強化を図っていくことは、その後の明るい豊かな社会実現へ向けて活動していく上で重要であると考えま</p>				

委員会名	組織力向上委員会			委員長	谷口拓史		
事業名	定例会の運営						
実施日時	1月定例会(1/21)2月定例会(2/18)3月定例会(3/18)4月定例会(4/22)5月定例会(5/20)6月定例会(6/17) 7月定例会(7/22)8月定例会(8/19)9月定例会(9/16)10月定例会(10/21)11月定例会(11/18)12月定例会 (11/25)						
会場	鳥取産業会館・商工会議所ビル5F(1・2・3・4・5・6・8・9・10・11・12月)、白兔会館(7月)						
参加人員	内部	132人	外部	0人	計	132人	
動員計画検証	年間通して88.1%といった出席率で、近年と比較してもかなり高い出席率を維持することができました。しかしながら、出席率の推移状況は右肩上がりではなく、後半にかけて低迷する出席率となってしまいました。その要因として、やはり一部メンバーの出席率の低下が見て取れました。当委員会ですら定めた例会案内担当メンバーからの声かけであったり、個別で対応させていただいたメンバーもいたのですが、なかなか改善できないのが現状としてありました。近年目覚ましい会員拡大が行われていく中で、組織全体としてのメンバーのフォローアップが難しい状況にあることも浮き彫りとなった年でした。今後は当委員会でのフォローアップ、各委員会対応はもちろんのこと、各メンバー同士での繋がりを最大限に活用していく必要があると感じました。						
事業目的検証	対外的	なし					
	対内的	本年度はクローズアップ委員会報告を用いて、各政策への理解を深めると共に、会員相互の情報共有を行ってきました。副委員長以下が主導となって行っていく手法を取り、若手にも登壇してもらい修練の場としての意味合いも含んだ内容となりました。しかし委員会において温度差が生じ、全委員会において当委員会が意図した若手にチャンスのあるクローズアップ委員会報告とはならなかった。					
事業内容検証	運営上	各月定例会次第に則って報告を行い、全メンバーが情報の共有を図る場となることを意識して運営して参りました。前年からの引き継ぎを踏まえ、報告時間の事前調整を行ってききましたが、予定時間を超過することもしばしばありました。きっちりとした報告時間管理の結果報告まで伝達し、翌月の定例会へ活かしていただく配慮も必要と感じました。定例会準備へ入るタイミングが会場使用時間より若干早い時があり、指摘された時がありました。また、定例会中のメンバーの姿勢であったり、報告態度であったりについてはしっかりと規律を守っていただく必要があります。					
	予算上	3月ブロック公式訪問例会は当初白兔会館での開催予定であったが、会場抑えを行った際、大学の謝恩会と日程がバッティングし、結果産業会館での開催を余儀なくされた。結果、当初の予算立てと差異が生じた。					
	その他	アフターがある定例会に関しては、早い段階での会場抑え、また最悪の事態を想定して定例会が行える条件が揃った会場を入念に選定しておく必要がある。					
今後の展望	青年会議所活動の中で、最も基本的、且つ重要な会合が定例会です。メンバー同士の情報共有がより積極的、より効率的に行われるような試みへ果敢に挑戦していきましょう。また、厳粛で規律のある定例会が行っていただけるよう、個人個人の資質の向上へも配慮ください。						

委員会名	組織力向上委員会			委員長	谷口拓史
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 2015年度 卒業式				
実施日時	2015年12月2日(水) 18:00～19:30				
会場	ホテルモナーク鳥取 鳳翔の間				
参加人員	内部	104人	外部	0人	計 104人
動員計画検証	本年度は、12月定例会後に拡大褒賞・内部褒章授与式並びにプレジデンシャルリース伝達式があることを想定し、時間的余裕を持たせるために別日にて開催しました。開催日については、卒業生へ事前聞き取りを行い、全員が出席可能な日とすることで全員参加して頂けました。また、若手会員が増えたことも考慮し、各委員長さんの協力を仰ぎながら出席率の向上へ務めました。しかしながら、平日の18時開催ということもあり、昨年に比べて約8%程度出席率が落ちました。また、遅刻者も数名出ました。今後は開催日時について本年度の結果を踏まえた配慮が必要となることと、事前連絡において強く時間厳守を促す必要があります。				
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	厳粛な空気の中、卒業式式典を執り行い、卒業生の新たなる門出を祝福する事ができました。また卒業生の活動の軌跡を、現役会員は感謝状、送辞を聞きながら改めて実感することができたと共に、これまで卒業生が残してくれた功績に再度感謝する機会となりました。			
事業内容検証	運営上	前年度委員長にリハーサルの段階から立ち会ってもらい、しっかりとした引継をさせていただいたことで写真撮影を含めてスムーズな会場設営ができました。また、事前に委員会で現地リハーサルを行い、会場レイアウト、登壇・降壇の仕方、起立・着席のタイミングなどを全て確認できたため、当日も細かい動きを説明しながらリハーサルを行うことができ、段取り良く次第を進行できました。その結果、30分程度前倒しの進捗状況の中卒業式式典を終える事ができました。			
	予算上	・帽子に関しては前年度購入していたため本年度は購入せずに済みました。			
	その他	なし			
今後の展望	これまで鳥取青年会議所の活動を全力で支えて頂いた卒業生へ感謝の想いを伝えることの出来る大切な儀式です。今後も私たち現役メンバーの想いがしっかりと通じる式典を執り行ってください。				

委員会名	青少年育成委員会		委員長	金田 祐季	
事業名	若草学園施設交流事業				
実施日時	2015年3月3日(火)10:00～12:30				
会場	若草学園・湖山西体育館				
参加人員	内部	80人	外部	123人	計 203人
動員計画検証	委員会訪問、電話での呼びかけを行いました。また、これまで出席のなかった方、研修会員へは事前説明会への参加も合わせて行いました。メンバー全てが参加したことのある事業とすることを目標にしましたが、残念ながらそれを達成することができませんでした。これまで参加したことのないメンバーの説明会への出席率は48%、事業への参加率は66%となりました。なお、全体としての出席率は72%となりました。				
事業目的検証	対外的	大学生に一任したアトラクションの時間では、準備運動として保護者や園の方々と一緒にダンスを踊り一体感に包まれました。また、その後の毛布レース、各ブースでの遊びの時間でも園児達の笑顔をたくさん見ることができました。			
	対内的	一年に一度、思いやりの心を再認識する事業として、また過去参加経験のあるメンバーには改めて気付きを持ち帰っていただけるものと考えていましたが、残念ながら全てのメンバーにはその目的に到達いただけませんでした。思いやりの心・新たな気付きとはどういうことであるのかを意識して事業にのぞんでもらうことで、目的達成へ近づけたと考えます。			
事業内容検証	運営上	事前シミュレーションにて写真撮影の段取り、ブース設置などの転換準備を特に念入りに行うことで、時間に無駄のない運営ができました。園児を見送った後、流れ解散のようになってしまった為、メンバーと大学生に感謝の意を伝え、振り返りシートの記入のお願い、片付けの段取りを伝える場を設けるべきでした。体育館のスペースを余すことなく有効に活用することができました。			
	予算上	購入予定品が品切れになっていた点、購入予定であった備品の見落としが数点あり購入の必要がなくなった事により、当初の予算金額と差異が出ました。今後インターネットでの備品購入は必要最小限にするべきと考えます。			
	その他	因幡のグリーン政策委員会に協力をいただき、しいたけもぎ取りブースを設置することができました。若草学園さんのご協力により、事業前日15時より湖山西体育館を借りることができました。昼食では、理事役員の方々を中心に参加いただきましたが、入会年度の浅いメンバーを中心とすることも検討するべきでした。			
今後の展望	草学園の関係者の皆様も、鳥取青年会議所との絆を大事に思っておられます。この歴史ある伝統事業を通じ、子ども達と共に楽しみながら、思いやりの心を再認識し、今後のJC活動に対して多くのパワーと気付きが得られる事業です。鳥取JCの根幹を為す事業であると考えますのでその重要性を継承し、若草学園施設交流事業を継続して下さい。また、事業の趣旨を鑑みれば、鳥取青年会議所の活動主旨を理解し福祉に触れて学びを体感できる事業として、今後担当委員会についてご検討いただければと思います。				

委員会名	青少年育成委員会		委員長	金田 祐季	
事業名	国府ステキ発見隊バスツアー～万葉の古都へタイムスリップ～				
実施日時	①結成式:2015年7月25日②夏合宿:2015年7月25日～26日 ③リーダー研修及びガイド準備:2015年7月～10月頃 ④バスツアー:2015年10月18日				
会場	①②加西市北条町、合宿:宮ノ下地区公民館 ③宮ノ下地区公民館④バスツアー:国府町、国府町中央公民館(万葉フェスティバルin鳥取同日開催)				
参加人員	内部	62人	外部	一般参加者 44 ステキ発見隊15 教育関係者2	計 123人
動員計画検証	一般参加者は定員オーバーとなった。しかし、前年特に効果のあった広告掲載での申し込みがわずかであり、ほとんどが呼びかけによる参加となった。チラシが不案内であったと考える。 ステキ発見隊の子ども達は、宮ノ下小学校の生徒に関しては、直接動員を行い想定に参加があったが、国府東小学校は、前年協力をいただいた万葉クラブの継続的な協力が得られず、直接動員する形となりわずかな参加となった。 教育関係者は、開会式の挨拶があるならば出席を検討するが、子ども達のガイドを見るだけでは参加しない旨の				
事業目的検証	対外的	子ども達は、故郷の新たな魅力を発見したようで、地域愛の醸成につながったと考える。個人差があったが、コーチングの影響を受けた子どもは特に自主的にガイド勉強を行った。子ども達の発表に感銘を受けた人もおり、人の心を動かすことができたのではないだろうか。ステキ発見隊のメンバーから継続して行いたいとの声があがり、いならば国府ガイドクラブの方には、これからの継続的な協力を約束されたことから、モデルエリア確立となったと考える。			
	対内的	「人の心を動かす」ことのできる人材が目指すべきリーダー像であることを共有したかったが浸透には至らなかった。しかし、ガイド当日の子ども達の発表に心動かされたという声は聞かれた。 青少年を育成していく取り組みは、子ども達のガイド姿から成果が感じられた半面、まだまだ成長が必要だと思われる側面からも、改めて重要な事であると認識いただいた。			
事業内容検証	運営上	万葉フェスティバルと同日開催であるメリットがあまり活かせなかった。 おもてなしの心をもって、参加者をご案内する姿勢であったり、誘導であったり、まだまだ細かい詰めが必要であった。さらにガイドの質を上げるには、ガイド育成カリキュラムが必要である。 地声で伝えることにこだわったが、当日の状況を考えればマイクの使用も検討すべきだった。			
	予算上	リーダー研修会の補講を想定しておらず、予備費での拠出をせざるを得なかった。 午前午後を通してガイド勉強会を行う予定日に、学校の事業が重なり、午後のみ開催となったことから、弁当代の拠出がなくなった。 加西見学会に子どもの欠席者がでたことから、大型バスから中型バスへ変更し、減額となった。			
	その他	参加者は無料であるが、案内チラシの表記の仕方が誤解を生じかねないものとなり、一部混乱が生じた。旅行業法、補助金受託との兼ね合いから、ツアー会社とより適切な表記を検討するべきだった。 ガイド勉強会のスケジュールにあわせてコーチングの日程を組んだが、コーチングの成果のでやすいスケジュール調整ができればなお良かった。			
今後の展望	事業構築前のヒアリングで浮かび上がったコミュニケーション能力に関しては課題が多く、コーチング理論はそれに対してに大いに効果があがると思います。今回構築したモデルエリアを、発見隊メンバーに継続して参加いただき、より質の高い持続可能なシステムとして、因幡各地に発信できる国府スタイルを発展させてください。また、国府エリアの小学生のみならず、広く(仮称)国府ガイド塾に参加者を募り、子どもガイドの一大発信基地として、さらにリーダーを増やしてください。				

委員会名	芝生のまち因幡確立委員会		委員長	濱本昭吾	
事業名	日本一の芝生王国プレゼンツ いいDE～!!芝育～みんなで育てよう芝生と地域～モデル事業編				
実施日時	①説明会:平成27年5月30日(土)10:00～15:00 ②植付け:平成27年6月21日(日)9:00～11:00				
会場	南安長3公共空地				
参加人員	内部	52人	外部	32人	計 84人
動員計画検証	ポスティングを主とし動員を計画したが、結局最終的に各世帯に足を運び参加を促した。広く動員を募る方法と同時に労力は増すが対象者一人一人に趣旨の説明を行い参加を促す方法が効果的であった。また、そのような理由からより早い段階から計画的に動員を行うべきである。				
事業目的検証	対外的	対外的事業目的として芝生化による住民同士の繋がり強いモデル地区の創造とその過程で起こる事例の抽出を掲げた。後者において事例の抽出は一定量行えたと感じているが前者に関しては確定的な結果が出るまでには至らなかった。地域住民の意識変革は容易に行えることではなく次年度以降の対外的事業目的としては、モデル地区創造のための仕組みの確立、或いは、住民が住みよいと思うまちづくりのサポート体制の確立などが適切であると考える。			
	対内的	対内的目的としてメンバー一人ひとりが「環光のまち因幡」推進運動に対する理解を深め、「因幡=芝生」の地域イメージ確立の立役者になっていただくことを掲げていたが、根本的に参加人数が少なかった。メンバーを対象とした事前説明会等を計画し事業実施の意味を理解していただける場面を設けるべきであった。			
事業内容検証	運営上	“芝生”という植物を扱う性質上植え付け時期を逆算し事業構築スケジュールをより早期により具体的に組み立てる必要があった。 事業当日は、想定外の出来事もあるため委員長、副委員長以外も事業全体を把握できている委員会メンバーが必要であった。			
	予算上	本年度の植え付けに関しては、鳥取市より植え付けに必要な苗・肥料・資材等を支給または貸与をしていただけられたので演出費等のみのわずかな出費で事業が可能となった。業者への支払いは当初現金支払いを予定していたが委員会内の指示不足により振込支払いとなり予算計上していない金額及び科目が発生した。委員会内の事務担当の責任者を選出し、年間を通し管理していく方法がミスの軽減に繋がると感じた。			
	その他	説明会・植え付けともに屋外での事業であるため雨天の可能性もあるため予備日を設けておくこと。			
今後の展望	本年度活動を行い、感じたことは、芝生化自体の作業はさほど大変なものではありませんが植物であるがゆえ決まりきったルーティンワークでこなせるものではなく様々な判断をしなければならないということです。従ってその判断を担える地域の核となる方といかに協働するかということが重要になってきます。本事業をきっかけに芝生化を進めたいという地区が出てきましたがその地区にも核となる方がいらっしやいます。次年度以降そのような地区をより多く見つけ出し第2第3のモデル地区としてJCがしっかりサポートしてください。そしてこのような地区が因幡地域にあふれる仕組みを確立する取り組みを行ってください。				

委員会名	芝生のまち因幡確立委員会			委員長	濱本昭吾
事業名	いいDE～!!芝フェス2015ーWhy don't you enjoy the grass?ー				
実施日時	平成27年10月11日(日) 10:00～15:00				
会場	【視察ツアー】南安長3公共空地、【芝生化講座】鳥取大学(広報センター)、 【芝生体感ブース、防災紹介ブース、飲食ブース】グリーンフィールド				
参加人員	内部	48人	外部	340人	計 388人
動員計画検証	今後の事業の参考にするためチラシ、インターネット、ラジオ等々の媒体を見て来場したかの設問をアンケートに取り入れるべきだった。地域活性化に関連する行政の関連部署と綿密に連携すれば更なる動員が見込めれたと感じている。行政等第三者(JC以外)と連携するために早い段階での事業計画が必要である。				
事業目的検証	対外的	【視察ツアー】【芝生化講座】参加者は少なかったがターゲットとしていた町内会関係者に本事業の取り組みを理解していただき、且つ芝生化に対し前向き、後ろ向き様々な意見を抽出できた。 【芝生体感ブース、防災紹介ブース、飲食ブース】個人として多くの市民に芝生を体感していただくために多様な芝生コンテンツを準備したが悪天候のため十分に体感していただけなかった。			
	対内的	グリーンフィールド会場では、メンバー一人ひとりが芝生を通じて市民と触れ合い芝生の良さを伝えることができたと感じた。ただし、会場が分れていたことにより視察ツアーや芝生化講座について周知することができなかった。対内対外含めて複数のターゲットに複数の目的を伝えることは、結果的に非効率である。			
事業内容検証	運営上	【視察ツアー】【芝生化講座】外部団体が主催する事業に組み入れた今回の手法は、伝えたい内容が薄まってしまい適切でなかったと感じる。より理解していただくためには、各町内会、自治会単位で個別に説明する機会を検討する必要があると考える。 【芝生体感ブース、防災紹介ブース、飲食ブース】芝生を体感する事業にとって雨天時対応は、常につきまとう課題である。次年度以降でも芝生体感を取り入れた事業を行う場合は、十分に事業内容、雨天時の代替え案等の検討が必要である。			
	予算上	来場者数が大幅に下回ったため準備していた飲食ブース割引チケットが余り92,000円という大きな差異が生じた。			
	その他	本事業のような広く発信する手法は、目的の達成度からみて本年度の実施は適切でなく、現時点では、ターゲットを絞り、そのターゲットに対し柔軟な対応が可能な手法を選択すべきであったと感じた。ただし複数の会場、複数の団体と協力しながら実施できたことは“外部団体との協働”という部分において評価できると感じる。その一方でそれぞれの団体の目的に少しづつ相違があるため今後も継続的に協力体制をとっていくのであれば改めて互いの目的を認識し共有する必要があると感じた。			
今後の展望	モデル地区の確立事業とともにその取り組みを発信することで多様なモデルエリアが因幡地域に拡大していく。一つひとつの地区としては小さな取り組みであるが小さな取り組みの集合体が芝生でつながるまち“芝生のまち因幡”であり、その結果この因幡地域が明るい豊かなまちになると考えています。				

委員会名	因幡のグリーン政策委員会	委員長	小谷 泰史
事業名	鳥取JCしいたけの森プロジェクト ～森へとびこめ！フォレストダイブ～		
実施日時	しいたけの森:2015年10月10日(土曜日) 意見交換会: 2015年10月23日(金曜日)		
会場	鳥取市越路鳥取JCしいたけの森・鳥取市文化センター		
参加人員	内部	66人	外部 111人 計 177人
動員計画検証	<p>【フォレストダイブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点小学校からの参加は少なかつたものの学校関係者の関心は高く、年度当初のPTA等の集まりで案内・プレゼンすればより効果的に動員が可能とのアドバイスを頂くなど、次年度以降期待が持てる感触であった。 アンケート結果からも折込チラシ・単独チラシの効果が高いことが確認できた。 <p>【意見交換会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政(県及び鳥取市の農林部局)及び環境研究機関(菌じん研究所及び鳥取大学乾燥地研究センター)については、事業の趣旨を理解していただき、積極的に出席していただいた。 教育関係者(鳥取市教育委員会)については、趣旨を十分に理解していただけず、欠席となった。 個別訪問した会場付近の小学校では、校長先生等の感触は良かったことから、次年度以降は教育委員会ではなく、個別小学校にターゲットを絞り、協力を依頼したほうが、教育関係者を巻き込むことが可能だと考える。 		
事業目的検証	対外的	<ul style="list-style-type: none"> 事業当日のメニューは、参加者に楽しみながら森林保全活動の大切さを学んでもらえたという点で、市民の森林環境保全に対する意識向上に効果的だったといえる。 森林所有者に対して、フォレストダイブ方式による保全活動の魅力を感じてもらえたことは、今後、森林所有者の協力を得られる可能性を見出すことができた。 行政からの補助金等の制度を活用する事で森林所有者の保全活動の敷居を低くすることができるなど新たな情報を得られたことは、事業目的の達成のために非常に有益であった。 フォレストダイブ方式を展開するために必要となる新しい視点などのアドバイスを頂き、意識の高い市民拡大に効果的な事業へのブラッシュアップができた。 	
	対内的	<ul style="list-style-type: none"> フォレストダイブ事業の動員成功や事業当日の参加者の満足度は、事業に参加したLOMメンバーを中心に、「環光のまち因幡」推進運動実現のために、今回の事業の有効性を感じていただき、今後の因幡のグリーン政策の方向性を示すことが出来た。 意見交換会において、「環光のまち因幡」推進運動実現のための因幡のグリーン政策の今後の方向性を確認すると共に、「きのこパートナーシップ」として、今後も外部協力していただけることが確認できた。 	
事業内容検証	運営上	<p>【フォレストダイブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各セクションに因幡のグリーン政策委員会メンバーを担当責任者として配置し、メンバーをバランスよく配置する事で予定時間通りに運営でき、安全面も確保することができた。 前日までにシミュレーションを繰り返す事で当日スムーズに運営することができた。 間伐、植林・植菌、木工体験の各セクション直前にそれぞれパネルを使って説明を入れることで、子供達は集中力を保ちながら、保全活動の意義を意識し、体験することができた。 <p>【意見交換会】</p> <p>事業後、今年度きのこパートナーシップメンバーへ直接、事業報告を行い各協力者それぞれの立場で意見がいただけるよう打ち合わせを行なった事で伝わりやすく、より良い意見交換会となった。</p>	
	予算上	<p>本年度事業では(公社)鳥取県緑化推進委員会の助成金を利用した。行政の補助金より時間をかけず頂くことが出来た、また用途に応じて金額の異なる助成金があるので事業計画を立てると同時に助成金の種類を確認するとスムーズに行える。</p>	
	その他	<p>屋外での事業の為雨天時の対策等も必要である。</p>	
今後の展望	<p>行政の補助制度を活用したり、森林所有者の意識を変えることにより賛同者を増やし、森林保全意識の高い市民の輪の拡大を目指すため、因幡地域の各地で同様なイベントが開催されるようになることが鳥取青年会議所としての2019年のビジョンである。それらを踏まえ、2019年までの間は、鳥取青年会議所として、事業を継続する必要があると考える。</p>		

委員会名	究極の田舎政策委員会		委員長	平田 俊輔	
事業名	うみやまコン vol.2 縁旅～今年も鳥取の魅力体験、婚活ツアー始めます～				
実施日時	うみやまコンvol.2 海コース8月29日(土)～8月30日(日) 山コース9月12日(土)～13日(日)				
会場	海コース(鹿野・気高・青谷・岩美・白兔) 山コース(若桜・佐治・智頭)				
参加人員	内部	118人	外部	45人	計 163人
動員計画検証	<p>男性動員>各コース共に、メンバー(地域戦略会議メンバー含む)が事業構築に意識が注がれてしまい動員に対して手薄になった。また募集期間に情報確認を行う機会が少なかった。定員を達するには早めの声かけを各地域・団体と情報を共有しながら募集する必要がある。</p> <p>女性動員>リスティング広告・フリーペーパー・FaceBookを用いてターゲットを明確に行ったが定員には繋がらなかった。その中でもリスティング広告の閲覧数は多く、発信の面では他の媒体に比べ予算以上の効果があった。ツアー内容のイメージが膨らむ掲載をすることが必要で写真などわかりやすいものを用いてイメージして頂く事が動員に繋がる。</p> <p>募集人数について>この度実施した事業の内容に対して、今回参加した人数が妥当とも考えられる。それには、スケジュールがタイトであった為、予定していた人数で行うと各セッション等での対応に応える事は難しかったと考える。</p>				
事業目的検証	対外的	田舎環境に磨きをかけるといった継続的な体制を作り出せなかった。それに伴い、地域の課題解決といった地域の枠を超えた活動に至らなかった。しかし、地域連携から生まれる地域活性化への取り組みに、更なる発展の必要性を感じて頂けた。また、参加者には因幡ファンになって頂け、リピート率の向上・郷土愛の醸成に繋がった。今後継続的な体制を作るには地域連携戦略会議を早い段階で行い各地域のニーズを洗い出し、課題解決に向けた事業を構築する事が必要不可欠と考える。			
	対内的	事業の中身を触れて頂く事は少なかったが、各セッションの準備から撤去など多くメンバーに関わって頂き触れて頂ける事が出来た。「因幡の田舎の魅力を高め広める取り組み」という目的に沿った地域連携の形を共有する事で田舎政策の理解が深まり今後の発展に加速する			
事業内容検証	運営上	事業構築から協働体制を整える事で事業内容に厚みが増し、多くの地域の魅力が発信できた。また、スケジュールや準備などスムーズに行えれた。準備段階から各リーダーを設ける事で指示系統が明確に運営出来、各セッションが責任を持って取り組めれた。しかし、内容がタイトであった為、参加者からは不満の声も上がった。			
	予算上	参加者からスケジュールがタイトであったとの声が上がっていることから、事業内容にゆとりを持たせたものを構築し、それに見合った参加料に下げる事も検討するべきと考える。旅行代理店へツアーに関わる収支を一元化することによりスムーズな予算の執行ができた。			
	その他	公募型のツアーについては旅行業違反に基づき旅行代理店へ委託する事が必要な場合があります。その際動員についても法律で制限があるので注意が必要です。			
今後の展望	因幡地域の魅力(ひと・もの・環境)に磨きをかけ、地域連携からなる地域活性化に取り組み今後の発展に結び付けるには、各地域が長期的な連携を行い継続していく事が必要不可欠です。それには地域連携戦略会議で各地域のニーズを浮き彫りとした目的を明確にし、課題を解決し活かす事で地域連携に磨きが掛り今後の発展は基より、地域住民主体の活動が行われ、究極の田舎政策実現に繋がると考えます。				

委員会名	新生鳥取砂丘政策委員会				委員長	澤田 健吾		
事業名	砂丘DEアスロン2015							
実施日時	2015年10月4日※雨天決行							
会場	オアシス広場、鳥取砂丘周辺							
参加人員	内部	132	人	外部	競技者148 メイン会場 1,236 ボランティア 26	人	計	1,542 人
動員計画検証	<p>動員はトライアスロンプレ大会21名、オリジナルトライアスロン127名で合計が148名と270名の動員計画は達成出来ませんでした。これは議案の審議承認を受けるまでのスケジュールが計画通り遂行出来ず、臨時理事会での承認になってしまい、告知期間が短くなってしまったことが大きな原因と考えます。しっかりスケジュール管理を行い予定通りの議案上程が必須です。また、チラシとホームページを活用し参加募集の広報を行ったが構成が効果的でなく競技が分かりにくかったことや、他のイベントとのバッティングが多かったこと、動員計画数に対してオリジナルトライアスロンの事業自体の認知度が低かったこと、オリジナルトライアスロンの参加費が3,000円と高かったことなどが考えられます。これらは広報用のチラシ紙面の構成などを、トライアスロン協会の方の意見を貰いながら詰める必要があります。今後、開催日程、参加費なども、もっとも適した日程、参加費、参加商品の内容などの検証も必要です。そして、オリジナルトライアスロンの認知度を上げていく工夫も同時に必要になってくると考えます。</p>							
事業目的検証	対外的	<p>昨年よりも参加者は拡大しましたが県内からの参加が9割を占め、メイン会場も来場者が少なく、動員には課題が残りました。しかし参加者や来場者の方々には山陰海岸ジオパークと鳥取砂丘の魅力を広く発信するという目的はアンケート結果にもあるように十分達成出来たと考えます。来年度は動員計画をしっかりと行うことでより広い発信に繋げることが出来ます。その他には会場に来て頂いた方の6割以上の人がボランティアとして参加したいと回答しており今後繋がる可能性を示すことも出来ました。</p>						
	対内的	<p>事業の運営を通して、実際に砂丘の自然環境を感じて頂くことで砂丘の魅力を再認識して頂き、砂丘に対する誇りの醸成に繋がりました。</p>						
事業内容検証	運営上	<p>【コースについて】 ・今年度は昨年以上に広域なコース設定を行ったことにより多くの人員を必要としました。それに伴いボランティア等も導入しましたが、募集人数も少なく参加時間等もバラバラで指示が現場合わせになった部分がありました。ボランティアの動員計画、説明会等を行うと、しっかりとボランティア運営が出来ると考えます。 ・砂丘には多くの団体が共存しておりその調整が難しい部分がありました。しかし直接会いに行き話しを聞いて頂く事で賛同して頂け今後の事業の継続に寄与することが出来たともいます。今後は運営側になっていただける様に働きかけを継続していくことが重要です。 【メイン会場について】 メイン会場は多くの方に来て頂く事が出来ませんでした。出店者から次回も参加したいという感想を頂けたことは良かったと思います。メイン会場が芝生であったので、芝生が良かったとの声もありました。芝生化の取り組みと共同した事業構築も効果的と考えます。併せて各ブース間の一定の交流も取れていた模様ですが、更なる交流をもてる工夫をする事で、メイン会場の動員、活性化の一助に繋がります。</p>						
	予算上	<p>昨年はオリジナルトライアスロンの参加費が1,000円であったのに対し今年度は3,000円としました。次年度は参加費を一般と学生に分けるなどすると多くの動員にも繋がっていくと考えられます。「砂丘新発見伝」の予算の特性をしっかりと理解する必要があります。あくまで内容での集客が前提となります。併せて予算は事業の自立を目指すもので参加費を安くすることを検討してください。今後は企業スポンサーなどを獲得していく事で自立を目指すことも必要です。</p>						
	その他	<p>沢山の期待の中大きな事業を開催する事が出来ましたが審議承認が遅れ動員が不十分でした。来年は2ヶ月前倒して事業を構築し余裕を持って審議承認を頂き事業参加者を増やして行く必要があります。</p>						
今後の展望	<p>今後のキーワードは『砂丘を中心に人と人を繋げること』です。事業を通してわたしたちJCメンバーだけでは砂丘の魅力を広く知って頂く事が難しいことを改めて感じました。次年度の事業は多くの人に理解を得て多くの人を巻き込みそして本年度以上の大きな事業を行う必要があります。私たち鳥取青年会議所が懸け橋となり多くの人に支えられ守られていく日本唯一の鳥取砂丘や山陰海岸ジオパークを創造することで魅力的なものとなり、その場所を求め多くの人が国内外から訪れることで環境と経済が好循環する事に繋がっていきます。</p>							